

スギウラ株式会社 027-361-5808		
に、様々な政策が採られてきましたが、日本の少子化対策の特徴は、まず実現するための財源確保を伴わないものが多く、言ってみれば、政策のお題目化が目につきます。また、広く浅い政策ばかりで、子育て家庭や若い世代の結婚・出産行動を変えるほどのインパクトを持つような決定打が少ないこともあげられます。そして、世代間のバランスを十分に考慮した政策の枠組みが欠けているということもあげられます。 日本での少子化の原因は、晩婚化や未婚化の進展といった直接的なものだけでなく、結婚した場合も経済的理由により、子どもが生まれたときの十分な養育費が確保できる見通しがたたないと考え、出産を控えるということもあげられます。この他にも、出産後の女性の社会復帰の問題など様々な問題があります。 少子化対策には特効薬はないとよく言われています。少子化を止めるのであれば、断片的な政策ではなく、長 期的に物事を考え、しっかりとした政策を作る必要があります。特に、子育て支援サービス、仕事と育児の両立支援、子育て支援に対する社会全体の意識改革などをしていく必要があると思います。 長文となりましたが、皆様も少子化対策に対し、少しでも関心を持っていただければ幸いです。(お)  2 課商品紹介⑩ 第 10 回目の今回は色紙についてです。 色紙は、お祝いやお別れの時にみんなでお祝い書をしてプレゼントしたり、有名人にサインをもらって飾っておくのに使用することが多いと思います。また、病院や介護施設では利用者さんの作った作品を貼るための台紙に使用されることもあります。写真を貼り、カラフルに装飾して、親しい方への手作りのプレゼントにするのも良いでしょう。 詳しい商品に関しては弊社の担当営業か、営業 2 課までお気軽にお問い合わせください。(お)	スギウラ株式会社 〒370-0006 高崎市問屋町 2-2-8 電話番号 代 表 027-361-5808 営業 1 課 027-361-5734 営業 2 課 027-361-5780 Fax 027-361-1272 当社 Web サイト www.kamisugiura.co.jp お気付きの点や質問、疑問などありましたら、ご遠慮なく営業または、下記までお問合せください。 お問合せ メールアドレス sg-kabasawa @kamisugiura.co.jp	

ニュースレターQ	
スギウラ株式会社 027-361-5808	
天保 8 年 (1837 年) 創業	
2013 年 4 月 1 日 発行 第 69 号	
特 集 ・ 特殊紙・封筒キャンペーン ・ シタラフェア 2013 ・ 王子エフテックスの商品紹介③ ・ 続報「透明な紙」 ・ 少子化対策 海外と日本 ・ 2 課商品案内⑩	特殊紙・封筒キャンペーン 4 月になりました。 今年は桜の開花も早く、群馬でももう満開になっているところが多く見受けられます。まさに桜花爛漫といったところでしょうか。桜に限らず花が咲き誇り、若葉の新緑が鮮やかで、気候も穏やか。良い季節です。花粉さえなければ。 4 月といえば新入生、新社会人など、新たにスタートを切る月でもありますね。私も初心を忘れず、気を引き締めなおして新年度を迎えたいと思います。全く関係ありませんが、以前より「とろとろのオムレツ」を作るとき、フライパンの柄をトントンと叩いて丸める方法を少しずつ練習していました。つい最近ようやく上手くできるようになって、すごくうれしいです。良い気分です。4 月に入れました。花粉さえなければ。 さて、スタートの月と申しましたが、弊社では今月が決算月。区切りの月でもあります。多くは語りませんが、是非、皆様にご協力いただき、良い決算を迎えさせていただければと思います。よろしく願い申し上げます。 こちら区切りの月となりますキャンペーン。特殊紙と封筒のお問い合わせは、是非、弊社まで。 (K)  王子エフテックスの商品紹介③ 今月は「マシュマロ CoC」をご紹介します。ご存知の方も多いと思いますが、富士フィルムの「PHO」や興陽製紙の「北雪」に対し、比較的安価なケント紙としてご案内しております。 「マシュマロ」という商品名は、お菓子の「マシュマロ」に由来します。しっとりとした手触りと、なめらかな平滑性、光沢をおさえた表面にぴったりの名前だと思います。 マシュマロ CoC はインクジェットプリンターやレーザープリンターに対応したマルチペーパーです。小ロット印刷が増えてきている近年の状況にはうれしい付加価値です。用途は名刺やポストカード、冊 子の表紙など。通常の「マシュマロ CoC」のほかに、淡いクリーム色の「マシュマロ CoC ナチュラル」があります。寸法は四六判のタテ目、キク判のタテ目とヨコ目です。厚みは四六判ベースで 70kg から（ナチュラルは 90kg から）、225kg までと薄物から厚物までご用意があります。あいまいな表現になりますが「便利で使いやすい紙」として、心に留めていただければ幸いです。 (K) ※CoC：森林の環境保全を目的とした「FSC」認証を、製造・加工・流通にも適用させた認証制度。

シタラフェア 2013

3月1日～2日の日程で開催された「シタラフェア 2013」に行ってきました。毎年5月頃行われるこの展示会ですが、今回は会場になっているビエント高崎が改装される影響で、早い時期での開催となりました。

私が伺ったのは土曜日の午前中でしたが、結構な人で賑わっていたと思います。ただ、今回は大型の印刷機の展示がなかったのが、それが少し残念に感じられました。その分、休憩スペースとオープンセミナーのスペースが大きく取られていて、くつろいでいる方や商談している方が多くいました。

気になった展示品は、オフ輪の残紙を有効活用できる校正プリンターです。オフ輪屋さんでは、残紙として巻き取りに残る紙が相当量あり、それは今まで上白古紙として処分されることがほとんどだったようです。その残紙を有効活用できる大判のインクジェットプリンターが展示

されていました。普通、インクジェットに対応した紙は、表面にインクを定着させるための加工がされていますが、このプリンターは通常のA3 コートに印刷が出来るよう工夫がされています。これにより、実際に使用される紙での校正が可能になり、より仕上がりをイメージしやすくなります。もちろん、一般のインクジェット対応紙も使えるので、極小ロットのポスターなどの仕事もしやすくなるのでしょうか。

普通紙への印字ができ、残紙を有効に活用でき、より正確な校正が可能で、小ロットの分野への拡販も検討できると、色々メリットの多いこのプリンター。オフ輪をお持ちの印刷屋さん、もしくはオフ輪の購入を考えている印刷屋さんには、魅力があるのではないのでしょうか。

(K)

続報：透明な紙

当ニュースレターの先月号（第68号）でご紹介した「紙で発電！？」の記事の中に出てくる「透明な紙」が大量生産可能な紙として、王子ホールディングスと三菱化学によって開発されました。

トレーシングペーパーが紙の密度を調整して紙に透明感を出しているのに対し、今回の「透明な紙」は使用する繊維「セルロースナノファイバー」自体が透明になっています。そのため、その繊維を抄けば「透明な紙」が出来上がると

(K)

営業1課・今月の商品紹介

リニューアルされた三菱の高白 A2 コート
「パールコート N-BW」

是非ご検討を！まずは一度、お問い合わせ下さい。

少子化対策 海外と日本

少子高齢化の進む日本で、少子化対策という言葉を新聞やニュースで見かけるようになって久しいですが、残念ながら具体的な対策が見えていません。

医療の発展により、平均寿命が延びたことで、日本はいまや高齢化社会の先を行く、超高齢化社会に突入しています。現在日本の高齢者(65歳以上)人口は約2700万人に達し、4人で1人の高齢者を支えています。また、25年後には国民全体の約3分の1が高齢者になると予測されるほどの、高齢者大国になろうとしています。平成23年の合計特殊出生率は1.39で前年同様横ばいだった一方で、出生数は前年比約2万人減で過去最小になっています。出生数から死亡数を引いた自然増減は約20万人減になり、人口減少傾向がより鮮明になってきています。ですから、少子化対策は、人口減少に歯止めをかけることや、高齢者を支える人数を増やすためにも、重要な課題となっています。

日本だけでなく、ドイツやイタリアなどの先進国でも、少子化の問題を抱えている国は多いです。しかし、なかには日本と同様の少子化に悩みながらも、フランスや北欧諸国のように出生率を上昇させた実績のある国もあります。

フランスの場合1964年から出生率の低下が始まり、1994年には1.65にまで下降しましたが、翌1995年から徐々に上昇し始め、2008年には、EUの中でもトップクラスの合計特殊出生率2.0を誇るようになっています。フランスが出生率上昇に成功した要因は、まず制度の充実があげられます。フランスでは大企業であれ、地方の中小企業であれ、従業員には25日以上の有給休暇が与えられると法律で決まっています。また、女性社員に子供ができれば、企業は妊娠前後で計4ヶ月の有給休暇を与えなければいけません。その上、2人以上の子供を持つ親からの希望があった場合は、企業は3年間の育児休暇を取得させなければならず、そして、その休暇取得後は休暇前と同等のポジション、またほぼ同等の給料で復帰させなくてははいけません。休暇中の所得に関しては企業からではなく、国からの保障が出ることになっています。このような制度のおかげで、生活費やキャリアの心配をすることなく、出産をすることができるわけです。

また、育児制度だけでなく、保育園等の託児施設の充実にも力を入れています。子供ができてでも預けられる場所が無い場合、子育ての負担が増えてしまい、それが要因となって、出生率が下降してしまうからです。子供を持つことに対する不安や負担を、できるだけ軽減することができるこれらの制度によって、出生率の上昇になったといえます。しかし、いくら手厚い子育ての支援制度があっても、父親が育児に無関心であったならば、母親も子供を生む気にはならないと思います。そこで、フランスでは、父親も育児に参加しやすいように、有給休暇が認められています。生後4ヶ月以内ならば、有給を約2週間取得することができます。これにより、夫婦で育児を行うことができ、育児に対する関心も高まります。この他にも、子供2人目から家族手当が支給されたり、高校までは一律学費無料など、他にも様々な制度を徹底的に改革した結果、出生率上昇につながったといえます。しかし、これだけすばらしい制度にも欠点があり、例えば企業や従業員の経済的負担が重くなっている点が上げられます。特に法人税に加えて課される法人利益社会税は、企業側のコスト増大の原因にもなっています。

またフランス以外の先進国では、特に北欧諸国が出生率上昇に成功しています。その1つデンマークは、わずか12年間で出生率を1.37人から1.82人にまで上昇させています。育児にまつわる直接的な制度設定だけでなく、就労後や、家族関係、老後の安心に至るまで、すべて1本筋の通った改革を行い、男女共仕事をしながら、安心して子供も産める、理想的な社会になっています。しかし、これだけ充実した制度にはそれ相応のお金が必要になります。デンマークでは、消費税が22～25%程度、収入にかかる税は50%以上と非常に高いですが、「国が老後まで安心して暮らせてくれる」という意識があるため、子供を産みやすいだけでなく、将来不安に陥る人も少ないそうです。

フランスや北欧諸国の成功例をみると、しっかりとした政策をとることで、少子化の進行を止め、出生率アップにつなげています。一方、我が日本ではどうかというと、日本では90年の1.57ショック以降、少子化は社会問題とされ、本格的な少子化対策として、エンゼルプラン・新エンゼルプランなどの政策が採られてきました。具体的には、公的保育サービスの充実(待機児童ゼロ作戦)、仕事と子育ての両立支援(男女共同参画)、ワークライフバランス、結婚・就労支援などです。このよう
→裏面に続きます